



藤岡 緑 議員

問 コロナワクチン接種はどのようになるか。

答 個別と集団の両接種法で始める。

問 移動の難しい高齢者などへの接種は。

答 施設に入所されている方には、そこで接種できるように調整している。

問 町外かかりつけ医からの接種はできないのか。

答 長期入院や基礎疾患を持つ方が、主治医の下で接種する場合など、やむを得ない事情により例外的な接種はできる。

無制限に認めると各自治体における接種対象者の人数の算定ができない。

意見 国からの情報不足で、不明な点が多い。分かり次第周知を。

問 コロナ禍で働く女性への支援は。

答 ひとり親世帯に対する支援として、国の補助金を活用して、県が児童扶養手当を受給している世帯を対象に臨時特別給付金を昨年8月に支給。基本給付が一世帯5万円、第2子以降一人につき3万円、更に再支給を年末にも行っている。

問 町としての支援は。

答 県から生活困窮者自立相談支援事業の委託を受け、松前町社会福祉協議会が「くらしの相談支援室」を設置している。相談件数は213件でうち女性は88件。

問 生活支援のための貸し付けや家賃援助の具体的な相談には、どう対応するのか。

答 松前町社会福祉協議会を相談窓口とし愛媛県社会福祉協議会の2種類の貸し付け（緊急小口資金と総合支援資金）を受けることができる。

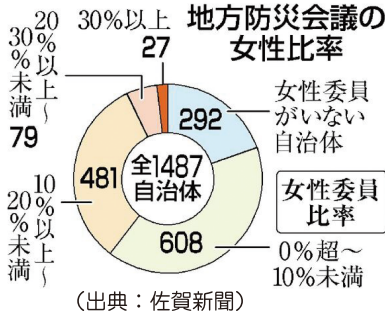
問 地方防災会議の女性委員の割合が非常に少ないが、町の見解は。

答 避難所運営や要配慮者への対応など女性の視点が必要と認識している。

問 どのように女性委員を増やしていくのか、今後の方策は。

答 現在本町の防災会議の女性委員は一人だが、条例上、国、県、町、消防、警察などの行政機関から選任するので難しい。

ただ実際の委員構成から見ると、定数の半分が町職員なので、委員数の見直しを含めた女性の登用が図れる関係条例の改正を行いたい。



稲田 輝宏 議員

問 町内には緊急車両の通れない幅員4m未満の狭あい道路が多く、防災の面からも狭あい道路の拡張が重要だ。解消に向けての対策は。

答 狭あい道路は災害時避難路、安全で良好な環境を形成するうえで問題があり、道路の拡張を促進することは重要だが現実的には困難な状況だ。

狭あい道路に接する建築物を築造する場合は道路の中心線から2mを境界線とし、後退する規定がある。建築後退部分は、土地所有者から寄付のあった場合、町の費用で土地分筆・所有権移転登記事務を行い、その部分の道路舗装を実施することで、狭あい道路の拡張を推進している。

問 狭あい道路の拡幅に向けて、町として一歩でも半歩でも前進していく方向で導いてほしいが、制度のPRはなされているのか。

答 現在まで広報等では周知していない。今後、機会があれば周知していくよう検討したい。

意見 事前防災の点からも狭あい道路の解消は急務である。何もしなければ何も変わらない。積極的にPRし、制度利用の呼び掛けを。

問 町内鉄道6駅で、トイレがないのはJR伊予横田駅だけである。住民に対する福祉は公平でなければならぬ。トイレ設置にかかる伊予市との協議はどこまで進んでいるのか。

答 両市間で協議の結果、伊予市担当課からは、利用者及び周辺地域からトイレ設置要

望がない上に、設備の維持管理及び市の財政状況からトイレ設置の考えはないとの意見があった。

町としてもトイレ設置の要望を受けたことはない。通勤・通学者が大半で、駅での滞在時間が短いことから、トイレ設置の必要性は低い。設置には多大な費用がかかる。費用対効果は低いと思われるので、設置の考えはない。

問 地元の要望があれば検討するのか。

答 要望があれば本町での必要性を考え伊予市と協議する。

